

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学大学院						
教育プログラム・コース名	緩和ケア医療者養成コース						
対象者	医歯学総合研究科大学院生、保健衛生学研究科大学院生（大学院）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>①がん診療の一環としての緩和ケア（非がん疾患の緩和ケアとの比較も含めて）を理解し、最新のがん診療における知見を踏まえた緩和ケアを実践できる医療者・人材</p> <p>②様々な年齢（小児、AYA世代、高齢者など）、場面（在宅、緩和ケア病棟、外来、就労など）における緩和ケアについて理解し、必要な連携体制を構築できる医療者・人材</p> <p>③診療科横断的な部門の構成員として、がん診療を俯瞰しマネジメントを行うことができる医療者・人材</p>						
修了要件・履修方法	各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること						
履修科目等	<p><必修科目> 所属分野の必修18単位に加えて、本プランの臨床腫瘍学、緩和医療学の2単位+実習1単位</p> <p><選択科目> 所属分野以外の6単位に加えて、本プランの臓器別がん治療、放射線基礎、臨床腫瘍学、総合演習から3単位</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>本学医学部附属病院にはこの4月に15床の緩和ケア病棟を開設した。これは全国の大学病院本院では7番目であり、東京都の13大学医学部本院の中では唯一のものである。緩和ケアの診療・教育・研究体制は2名の教員（暫定指導医および専門医）と1名の医員で行っている。卒前教育としても、3年次のブロック講義で3コマ、4年次のプロジェクトセメスターで2名6ヶ月、6年次の臨床実習で必修科目として全員に2週間のローテーション（1週は学内、1週は学外の緩和ケア病棟）を行っている。また東京都緩和ケア病棟懇話会を主催し、都内の緩和ケア病棟の連携コーディネーター、近隣県の緩和ケア病棟との連携構築も積極的に推進し、緩和ケア病棟、チーム、外来における教育体制を整備している。これら豊富なフィールドとこれまでに構築してきた大学院のコースワークを融合し、多職種や社会医学的な視点も含めた重層的な緩和ケア教育を行うことが本コースの特色である。</p>						
指導体制	<p>臨床腫瘍学分野教員、保健衛生学科教員を中心に、専門医、専門看護師の育成を行う。社会人大大学院生についても積極的に受け入れ、医師・歯科医師に対するOn the job training体制を整備する。教育のフィールドとしては、本学医学部附属病院の緩和ケア病棟を中心に連携施設との協力体制を構築する。同時に、連携大学間の交換講義、遠隔講義、施設見学実習等も有効に活用できる体制を整備する。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアに従事する医療者（緩和医療専門医、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師、緩和薬物療法認定薬剤師等） 臨床心理士 						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	3	3	3	3	12
	計	0	3	3	3	3	12